

浅口市令和3年度 全国学力・学習状況調査の概要

令和3年9月

浅口市教育委員会学校教育課

【調査概要】

○浅口市内7小学校6年生児童282人、3中学校3年生生徒237人参加（R3/5/27実施）

【学力調査の結果概要】

○平均正答率

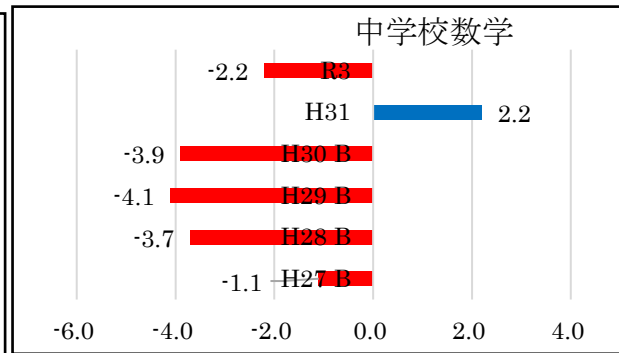
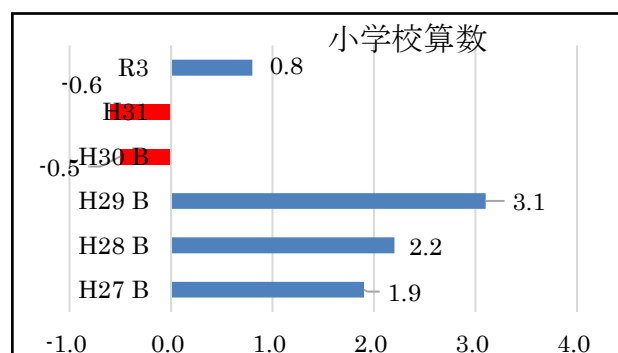
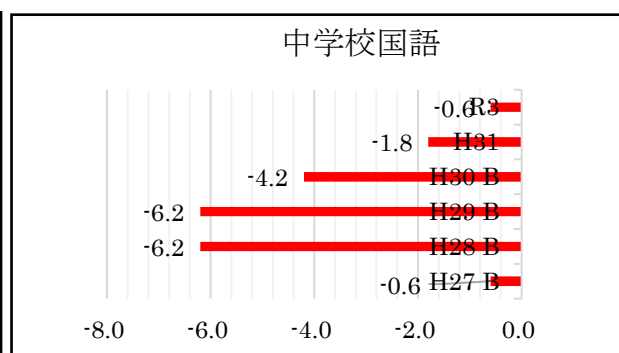
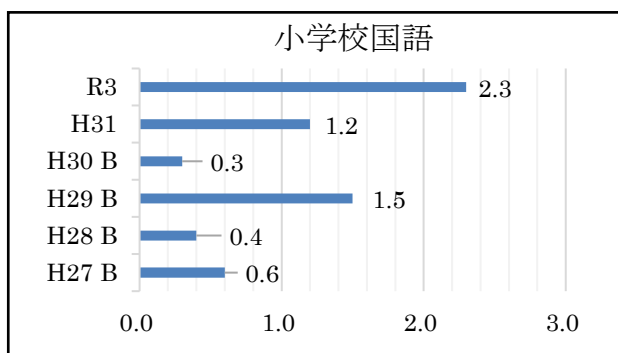
		国語	算数			国語	数学
小学校 6年生	浅口市	67.0	71.0	中学校 3年生	浅口市	64.0	55.0
	岡山県	66.0	69.0		岡山県	65.0	57.0
	全国	64.7	70.2		全国	64.6	57.2

- 浅口市の平均正答率を全国平均と比較すると、小学校では、国語科で2.3pt上回り、算数科で0.8pt上回った。基礎・基本の徹底や授業改善の成果が表れている。
- 中学校では、国語科で0.6pt下回り、数学で2.2pt下回った。2教科共に、全国・県平均を下回り、基礎学力の定着に向けた改善策が望まれる。

⇒ 学力全体を包括した授業改善や家庭学習習慣の定着などに、地道に、継続的に取り組む必要があると考えられる。

○経年変化（浅口市の平均正答率と全国平均正答率との差）

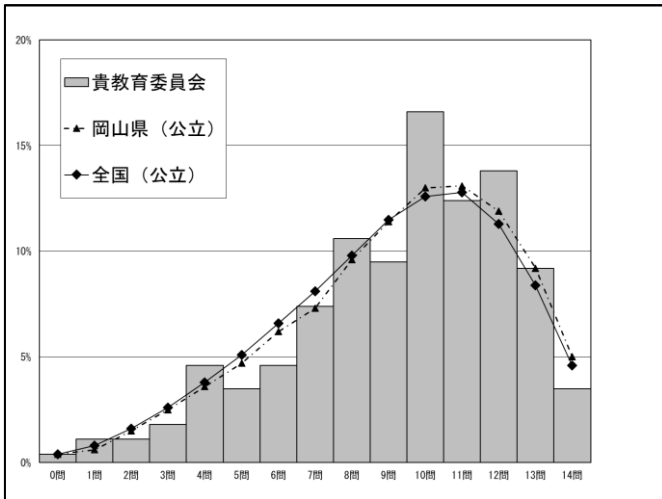
※R2年度は実施なし



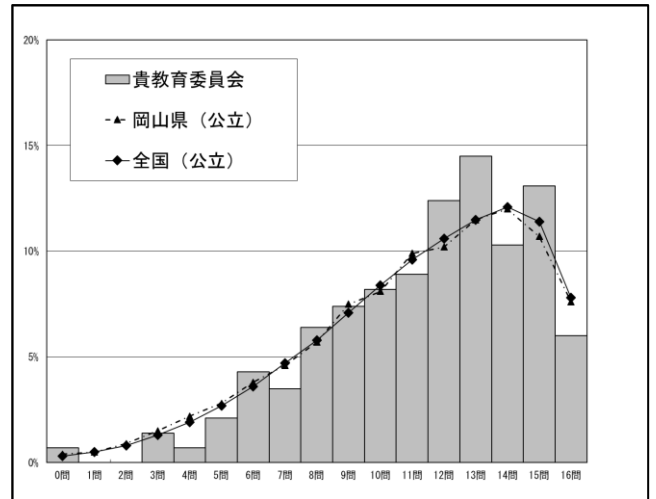
- 小学校では、算数科で全国平均を上回り、過去2年と比べて大きな改善が見られる。国語科に関しては、堅調な伸びが見られる。
- 中学校では、国語科・数学科共に課題が見られるが、国語科については年々向上が見られ、全国平均との差が縮まってきている。

⇒ 児童生徒に力がついていることを的確に伝え、取組のよさを価値付けると共に、個別の問題レベルで課題を明らかにし、習得が不十分な内容についての学び直しが必要である。

○平均正答率分布（折れ線グラフは全国平均・岡山県平均、柱状グラフは浅口市）
《小学校》

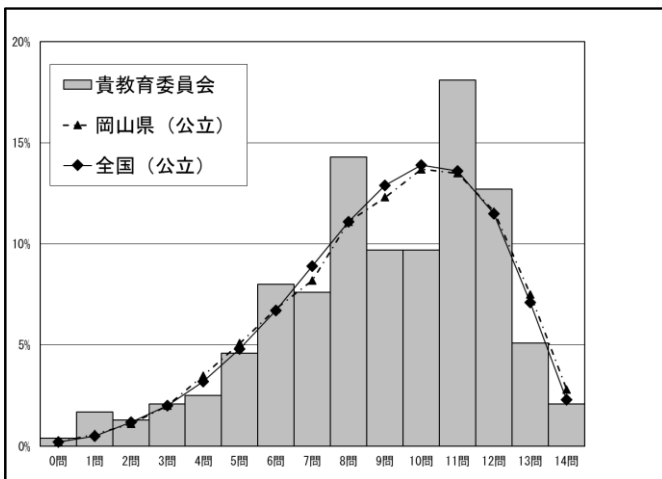


国語

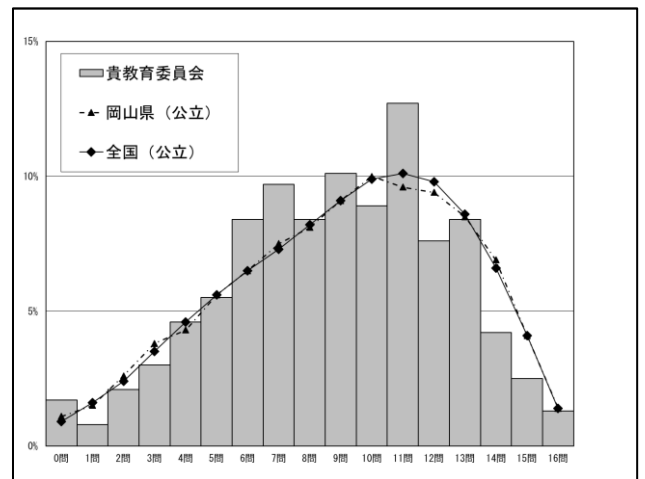


算数

《中学校》



国語

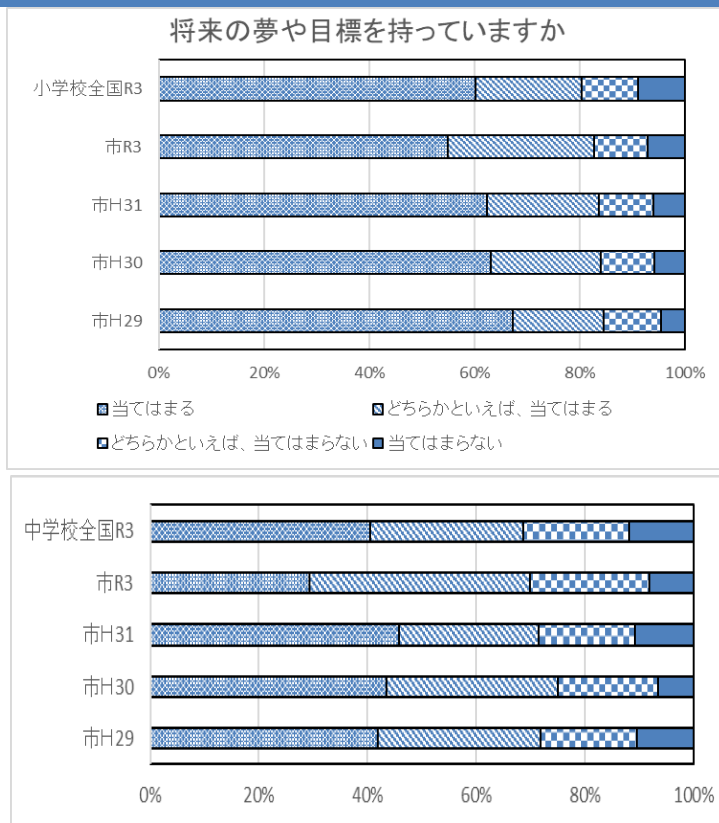


数学

- いずれもほぼ全国平均と同じような傾向が見られるが、教科によって、全国平均を大きく上回っている部分や下回っている部分がある。
⇒ 平均正答率が低い児童生徒への補充学習に力を入れるとともに、全体的なベースアップに向けて取組を工夫する必要がある。

【学習状況調査の結果概要】

①将来の夢や希望について



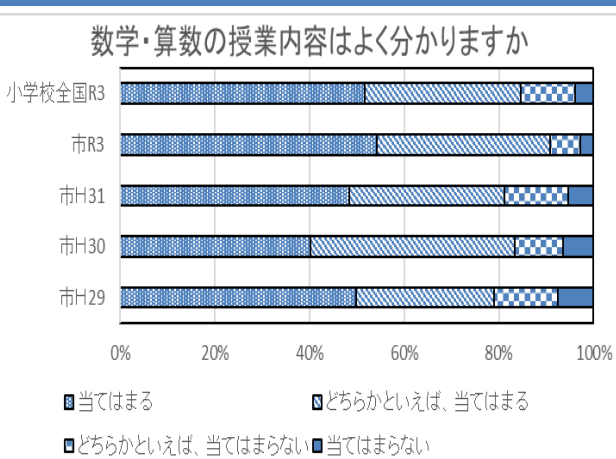
①将来の夢や希望について

- 肯定的な回答をした児童生徒の割合は全国平均とほぼ同程度である。しかし、当てはまると回答した児童生徒は全国平均より少なく、特に中学校では大きく減少している。

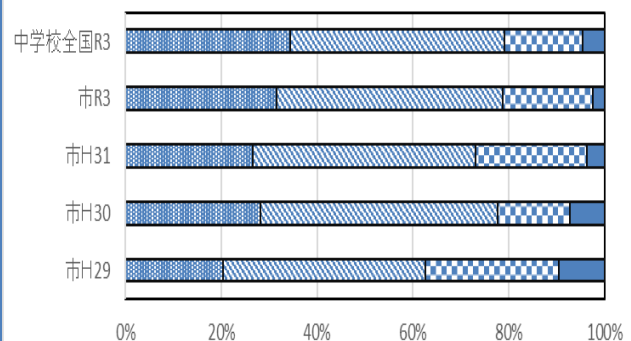
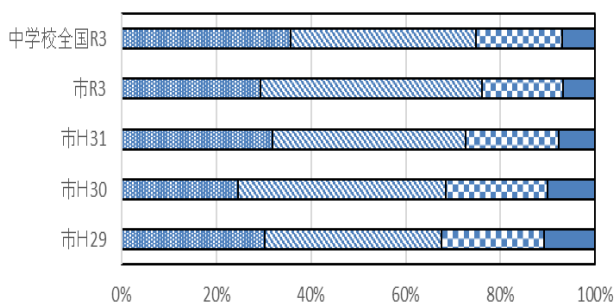
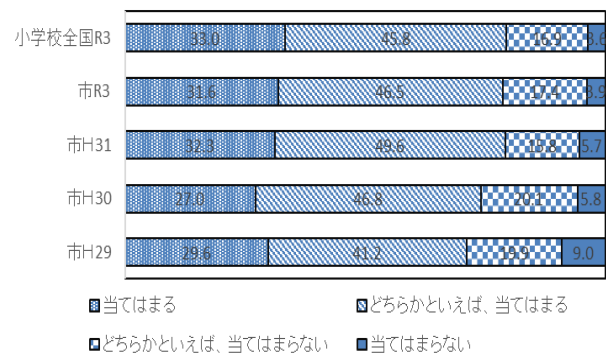
②授業について

- 「数学・算数の授業がよく分かりますか」について、小学校では肯定的な回答がここ数年上昇傾向である。中学校でも肯定的な回答が増加しているが、よくわかると回答した生徒はやや減少した。
- 話し合いについて、小学校は全国と同程度である。中学校は上昇傾向にある。

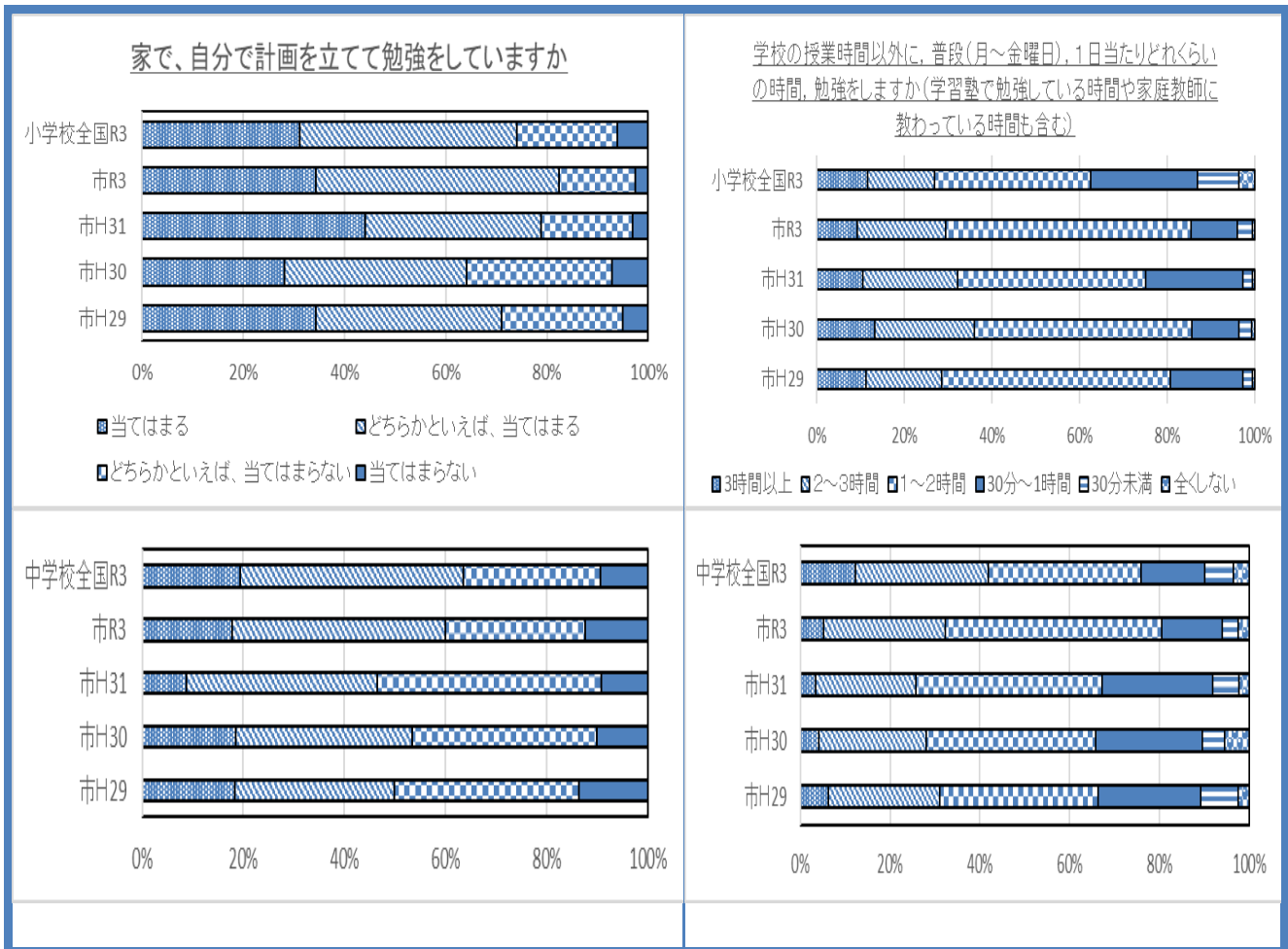
②授業について



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



③家庭学習について



③家庭学習について

- 小学校では、「家で、自分で計画を立てて～」については、肯定的な回答をする児童の割合が全国平均より高い水準にある。また、1時間以上家庭学習に取り組む児童の割合が大きく上昇し、全国平均より高い水準をキープしている。学習習慣は確実に身に付いていると考えられる。
- 中学校では、「家で、自分で計画を立てて～」については、肯定的な回答をした生徒の割合は上昇傾向にある。しかし、まだ全国平均よりも低い水準にある。一方で、家庭での学習時間は、着実に向上しており、1時間以上家庭学習に取り組む生徒の割合は全国平均より高い。学習習慣が着実に身に付いてきていると考えられる。

【市教育委員会の今後の取組】

～キラリと光る未来プロジェクトの推進～

□「良質な関わり合い」に焦点を当てた保育・授業改善、家庭学習・補充学習等の質的充実による学力の向上

- 資質・能力の育成に焦点をあてた指導の充実。
- 1人1台端末の活用による個別最適な学びや協働的な学びの推進。
- 校内研等を活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりへ指導の充実。
- 放課後学習支援員（小・中学校）を効果的に活用し、定期的な補充学習の機会の保障。

□「認める、ほめる、はげます」ことに焦点を当てたお互いの良さを認め合える学級づくりの推進

- 「学級経営アドバイザー事業」の推進による研修の充実。
- お互いの良さを見付け、伝え合う活動の継続。

□「子どもたちの主体的な活動、家庭や地域との連携」に焦点を当てた基本的な生活習慣の向上

- 各校の実践の再構築のための情報共有。
- コミュニティ・スクールを推進し、地域力を生活習慣の向上の取組に生かす。

□「系統的・継続的な教育」に焦点をあてた小・中一貫教育の推進

- 学習指導要領に基づく9年間のカリキュラムを編成し、小学校と中学校の滑らかな接続を図る。
- 中学校区で目指す子ども像を共有し、教職員が一体となって子どもたちの「生きる力」の育成を図る。